

## 8 態度・価値観

Q11 あなたは、次の意見（ア～タ）に賛成ですか、それとも反対ですか。  
次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- ア 「ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ」
- イ 「年上や目上の人には従うべきだ」
- ウ 「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」
- エ 「自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ」
- オ 「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」
- カ 「世の中は、なるようにしかならないものだ」
- キ 「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」
- ク 「悪い者をやっつけるためならば、場合によっては腕力に訴えてもよい」
- ケ 「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」
- コ 「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」
- サ 「義理人情を大切にすべきだ」
- シ 「努力するよりも要領よくふるまう方がよい」
- ス 「リーダーになって苦勞するよりは、人に従っていた方が気楽でよい」
- セ 「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」
- ソ 「自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ」
- タ 「ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ」

(選択肢)

- 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

## (1) 経年比較等

2-8-1 図は、態度・価値観に関する各項目について、「賛成」（「賛成」及び「やや賛成」の合計。以下同じ。）と回答した者の比率（以下この項において「賛成率」という。）を経年比較したものである。17年調査と比べて、賛成率に5pt以上の差のあった項目を見ると、賛成率が上昇したものには、「年上や目上の人には従うべきだ」があり、賛成率が低下したものには、「ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ」、「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」及び「悪い者をやっつけるためならば、場合によっては腕力に訴えてもよい」があるなど、まじめで堅実な生き方を肯定する傾向が強くなっている。一方で、「ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ」については、約7割の者が肯定的な回答をしているが、賛成

率がやや低下しており、社会貢献には消極的となっていることがうかがえた。

また、今回調査について、非行少年・若年犯罪者別に見ると、非行少年の賛成率が有意に高かったのは、「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」、「年上や目上の人には従うべきだ」及び「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」であり、若年犯罪者の賛成率は、「義理人情を大切にすべきだ」及び「世の中は、なるようにしかならぬものだ」において有意に高かった。非行少年には、若年犯罪者に比べて、伝統的な性役割観の強さが見られ、若年犯罪者には、非行少年に比べて、人とのつながりを重視する傾向が強く見られた。

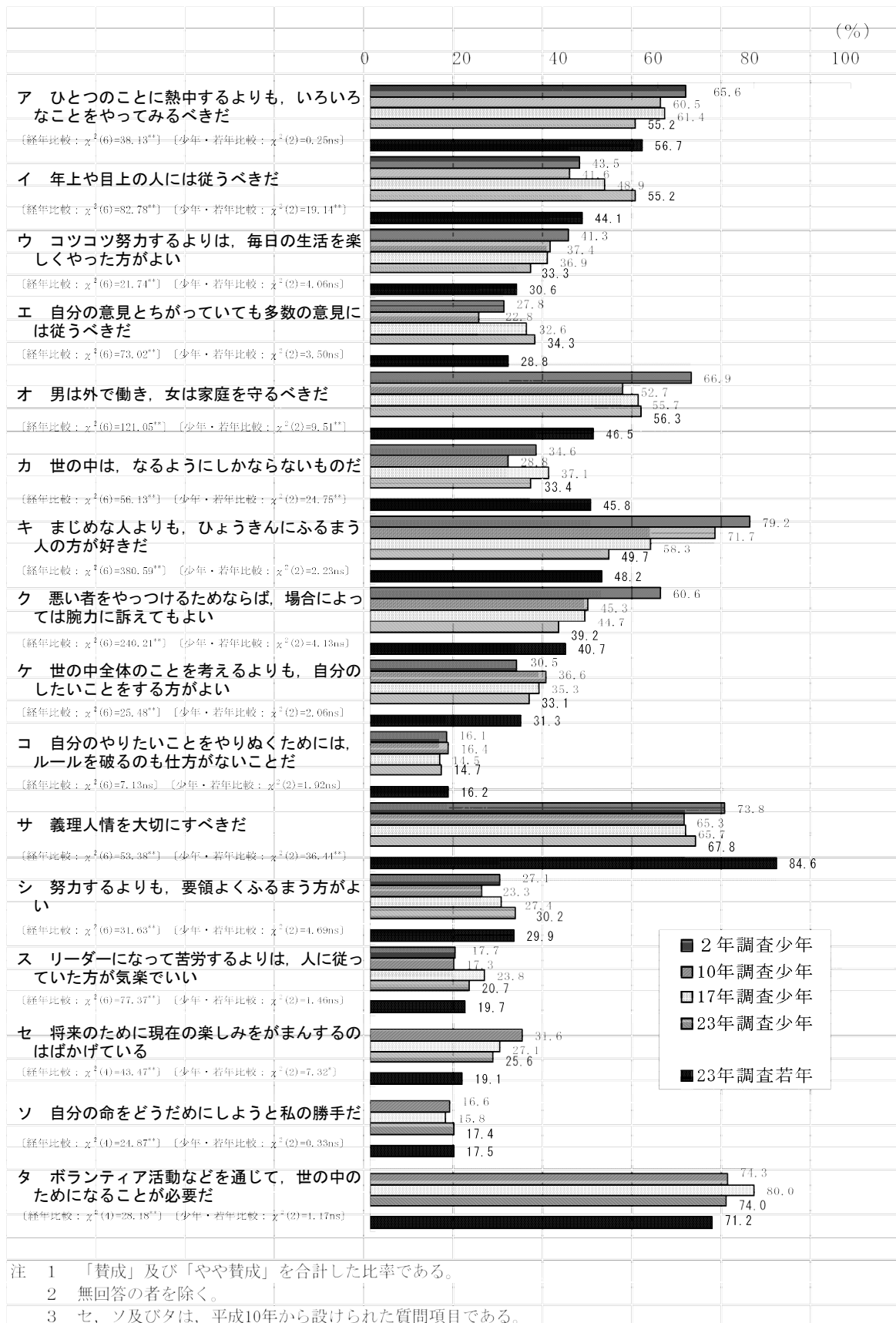
さらに、男女別の回答の違いを見ると、有意差が見られたのは非行少年のみであり、男子の方が賛成率が高かったのは、「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」（男子59.5%、女子32.2%、 $\chi^2(2)=49.87^{**}$ ）及び「義理人情を大切にすべきだ」（男子70.3%、女子49.4%、 $\chi^2(2)=16.58^{**}$ ）であった。

このほか、不良集団<sup>1</sup>との関わりの有無別（不良集団関係が不詳の者を除く。）に回答状況を見ると、若年犯罪者では、「悪い者をやっつけるためならば、場合によっては腕力に訴えてもよい」において、不良集団との関わりがある者の方が、ない者と比べて賛成率が高く（不良集団との関わりあり56.1%、不良集団との関わりなし38.1%、 $\chi^2(2)=7.13^*$ ）、問題解決の手段として暴力を肯定する傾向が見られた。

---

1 「不良集団」は、不良学生・生徒、地域不良集団、暴走族又は暴力団である。

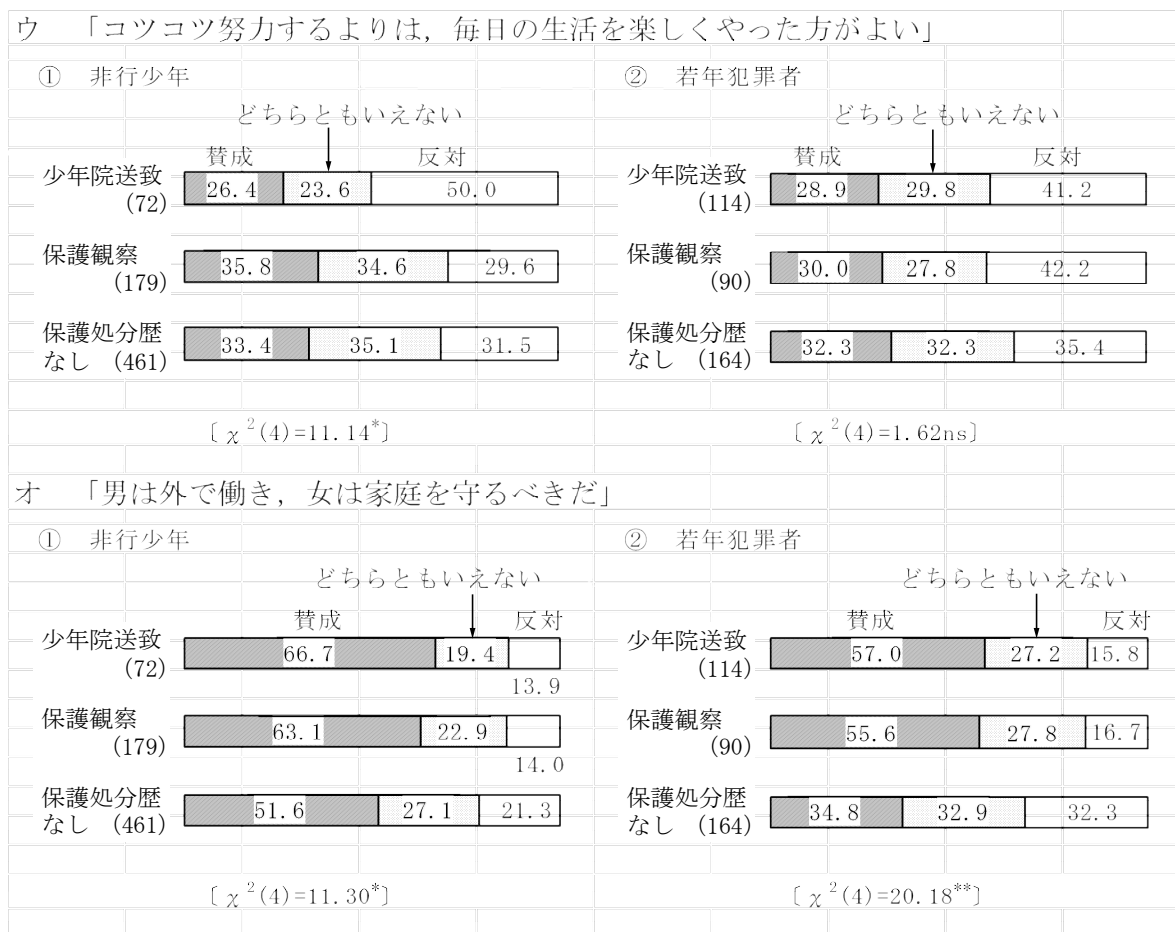
2-8-1 図 態度・価値観（経年比較等）



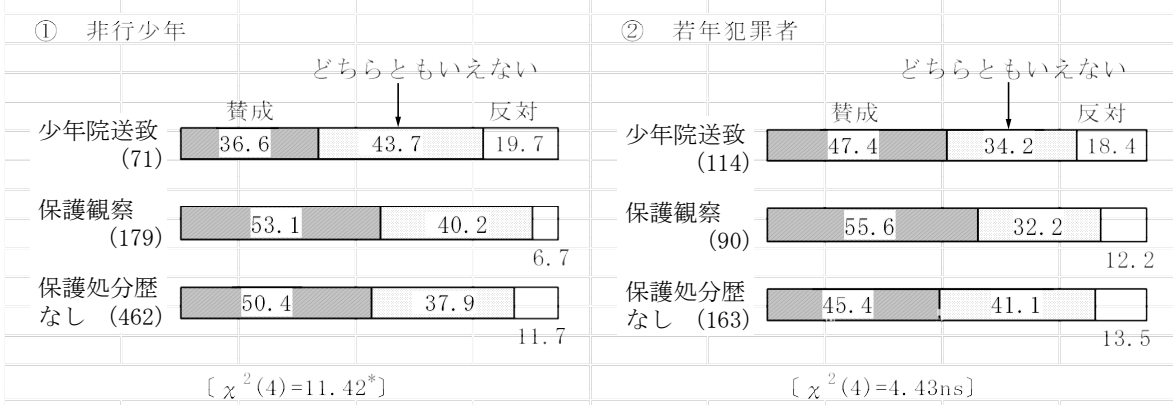
(2) 保護処分歴別の比較

2-8-2図は、今回調査において、非行少年・若年犯罪者別に、態度・価値観に関する意見について保護処分歴別にクロス集計を行い、回答状況に有意差のあった項目について、その構成比を見たものである。非行少年、若年犯罪者共に有意差が見られたのは、「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」であり、保護処分歴のない者において「賛成」と回答した者の構成比が低かった。非行少年では、少年院送致歴を有する者において、「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」、「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」、「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」及び「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」について、「反対」（「反対」及び「やや反対」の合計）と回答した者の構成比が高く、享樂的な生き方や自己中心的な考え方に否定的な傾向が比較的高いことが認められた。また、保護処分歴のない者では、「リーダーになって苦勞するよりは、人に従っていた方が氣樂でよい」において「賛成」と回答した者の構成比が高く、従屬的な態度の者が比較的多いことが認められた。

2-8-2図 態度・価値観（保護処分歴別）



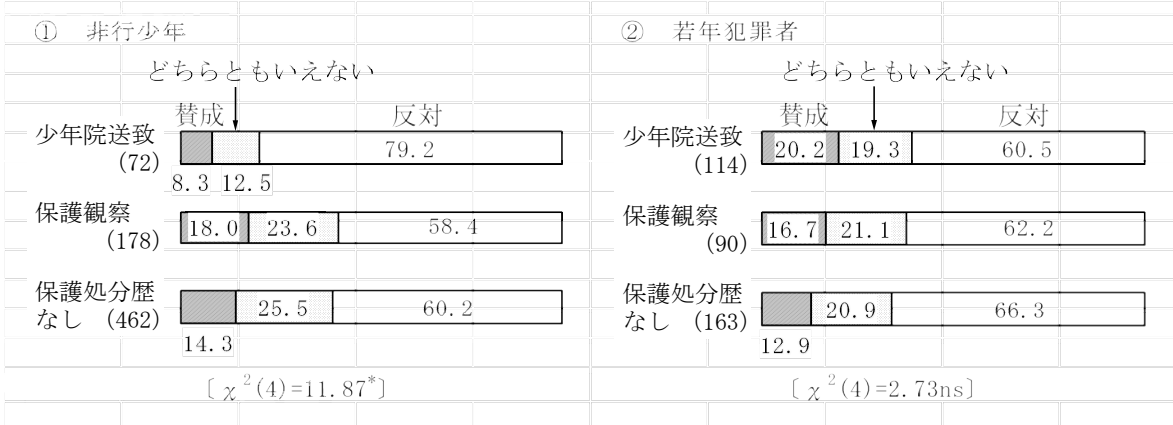
キ 「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」

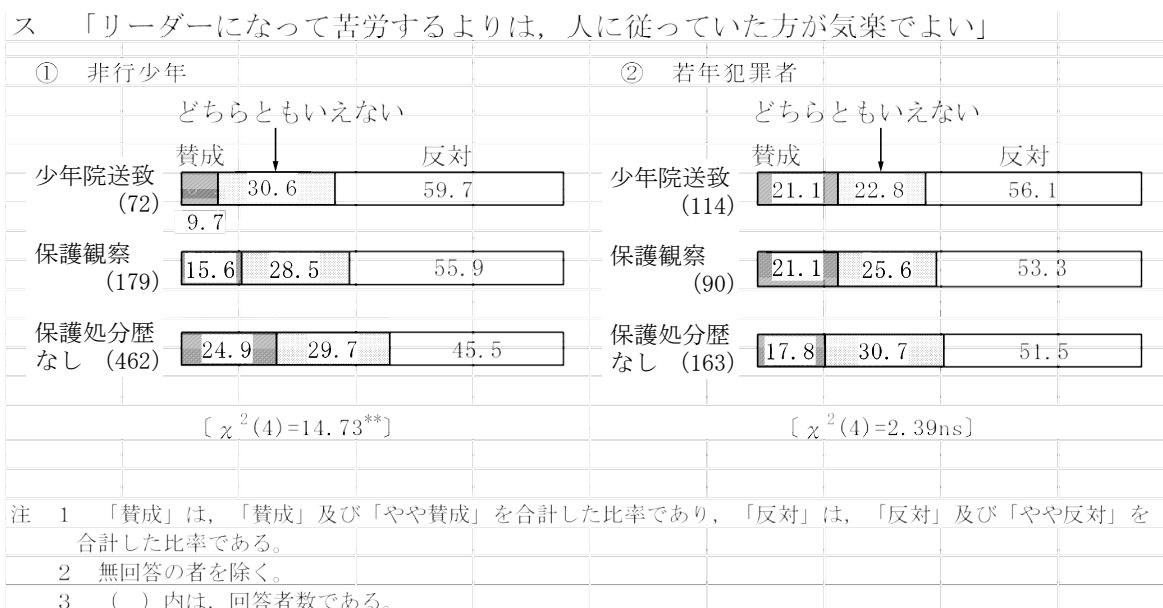


ケ 「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」



コ 「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」





なお、17年調査では、少年鑑別所の初入者と再入者について比較を行っており、前記の項目に加えて、「コツコツ努力するよりも要領よくふるまう方がよい」及び「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」において、初入者の賛成率は再入者よりも高いという結果が出ていたが<sup>2</sup>、今回調査では、有意差は見られなかった（それぞれ、初入者30.0%，再入者30.6%， $\chi^2(2)=0.45ns$ ，初入者26.8%，再入者22.8%， $\chi^2(2)=1.72ns$ ）。

2 法務総合研究所（2006）『法務総合研究所研究部報告32 ー最近の非行少年の特質に関する研究ー』（29-30頁）：「コツコツ努力するよりも要領よくふるまう方がよい」（初入者39.9%，再入者29.4%， $\chi^2(2)=70.04^{**}$ ）／「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」（初入者29.7%，再入者20.6%， $\chi^2(2)=53.18^{**}$ ）

## 9 対人感情

Q12 あなたは日ごろの生活で、次（ア～シ）のような感じになることがありますか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- ア 世の中には自分しか信じるものがないという感じ
- イ 世の中は結局金だけが頼りだという感じ
- ウ 心のあたたまる思いが少ないという感じ
- エ 自分の性格がいやになるという感じ
- オ 自分は何をやってもだめな人間だという感じ
- カ 自分は世の中から取り残されているという感じ
- キ 自分だけが悪く思われているという感じ
- ク 自分は意志が弱いという感じ
- ケ 自分はものごとに打ち込んでいるという感じ
- コ 自分は頼りにされているという感じ
- サ 自分の努力がだんだん実ってきているという感じ
- シ 世の中の人々は互いに助け合っているという感じ

(選択肢)

- 1 よくある      2 ときどきある      3 あまりない      4 まったくない

## (1) 経年比較等

2-9-1 図は、対人感情に関する各項目について、「ある」（「よくある」及び「ときどきある」の合計。以下同じ。）と回答した者の比率（以下この項において「該当率」という。）を経年比較したものである。17年調査と比べて、該当率に5pt以上の差が見られた項目を見ると、同比率が上昇したものは「自分は何をやってもだめな人間だという感じ」であり、同比率が低下したものは「自分はものごとに打ち込んでいるという感じ」、「自分は頼りにされているという感じ」及び「自分の努力がだんだん実ってきているという感じ」であり、自信や充実感が低下している。

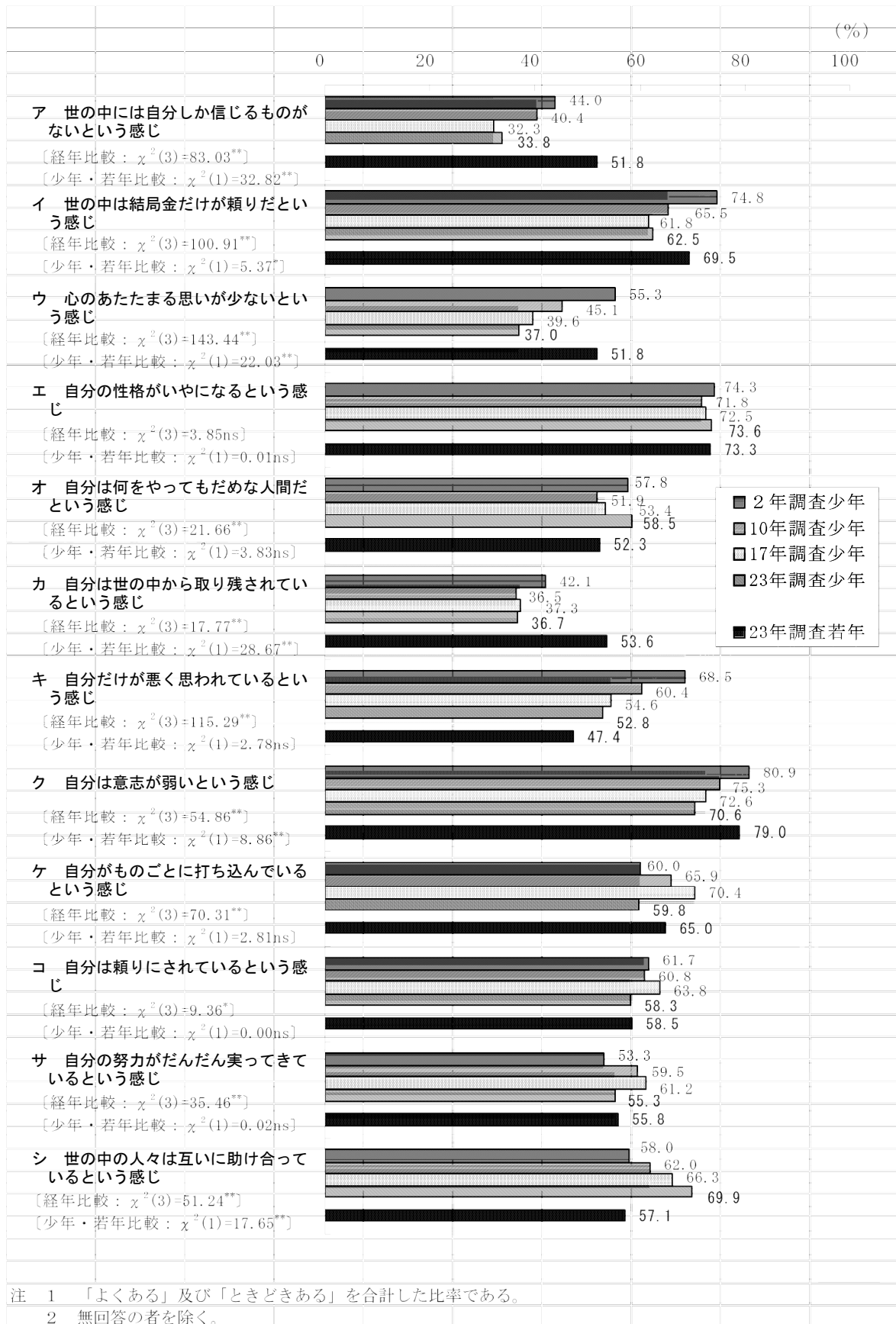
また、今回調査について、非行少年・若年犯罪者別に見ると、該当率が若年犯罪者の方が非行少年より有意に高かったのは、「世の中には自分しか信じるものがないという感じ」、「世の中は結局金だけが頼りだという感じ」、「心のあたたまる思いが少ないという感じ」、「自分は世の中から取り残されているという感じ」及び「自分は意志が弱いという感じ」であり、非行少年の方が若年犯罪者より同比率が高かったのは、「世の中の人々は互いに

助け合っているという感じ」であった。若年犯罪者の方が非行少年に比べて、孤独感や社会からの疎外感を感じていることがうかがえる。

さらに、男女別の回答の違いを見ると、非行少年では、「自分の性格がいやになるという感じ」及び「自分は何をやってもだめな人間だという感じ」において、女子の方が男子より該当率が高く（それぞれ、男子71.9%、女子86.0%、 $\chi^2(1)=7.83^{**}$ 、男子56.3%、女子74.4%、 $\chi^2(1)=10.21^{**}$ ）、「自分の努力がだんだん実ってきているという感じ」では、女子の方が男子に比べて「ある」と回答した者の比率が低いなど（男子57.5%、女子39.5%、 $\chi^2(1)=9.85^*$ ）、女子の非行少年で自己イメージの悪い者が比較的多いことが明らかとなった。一方、若年犯罪者では、「世の中の人々は互いに助け合っているという感じ」において、男性の方が女性に比べて該当率が低く（男性55.9%、女性77.3%、 $\chi^2(1)=3.87^*$ ）、前記において指摘した若年犯罪者の孤立感・疎外感の強さは、男性で強い傾向であると考えられる。



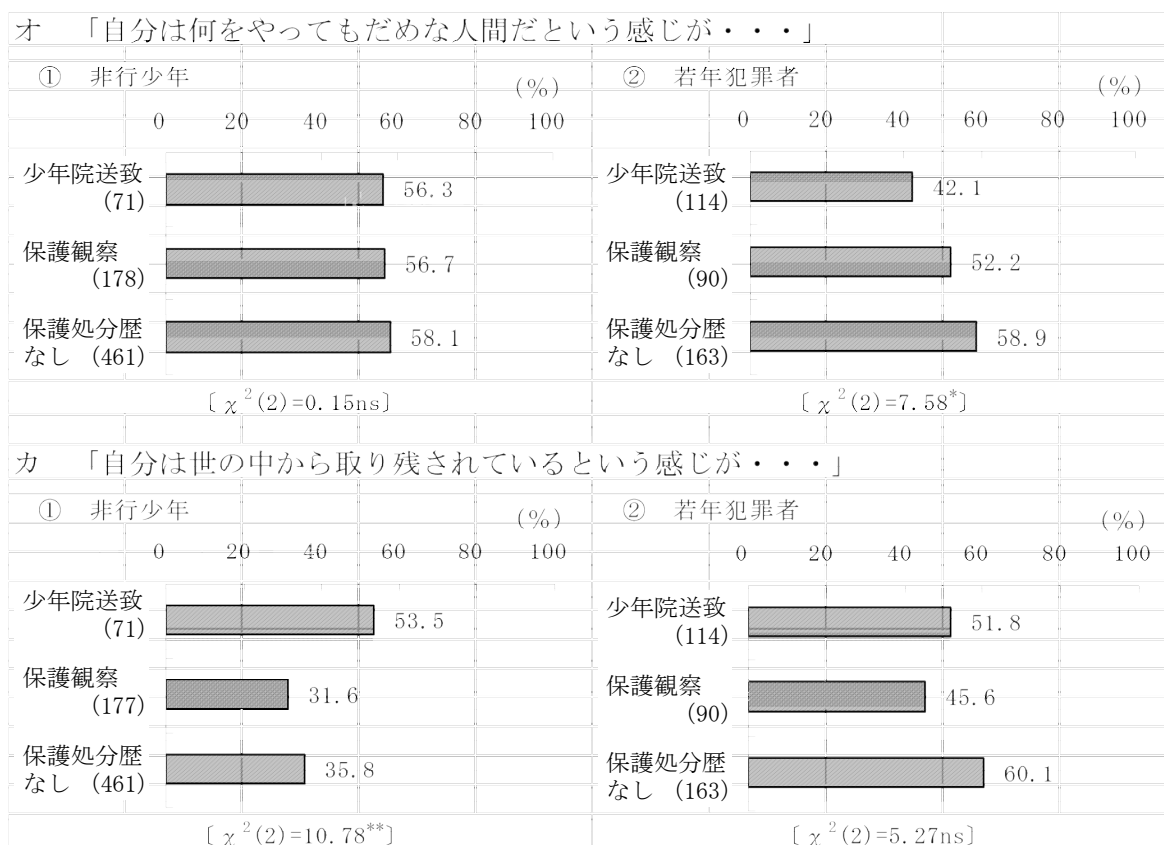
2-9-1 図 対人感情（経年比較等）

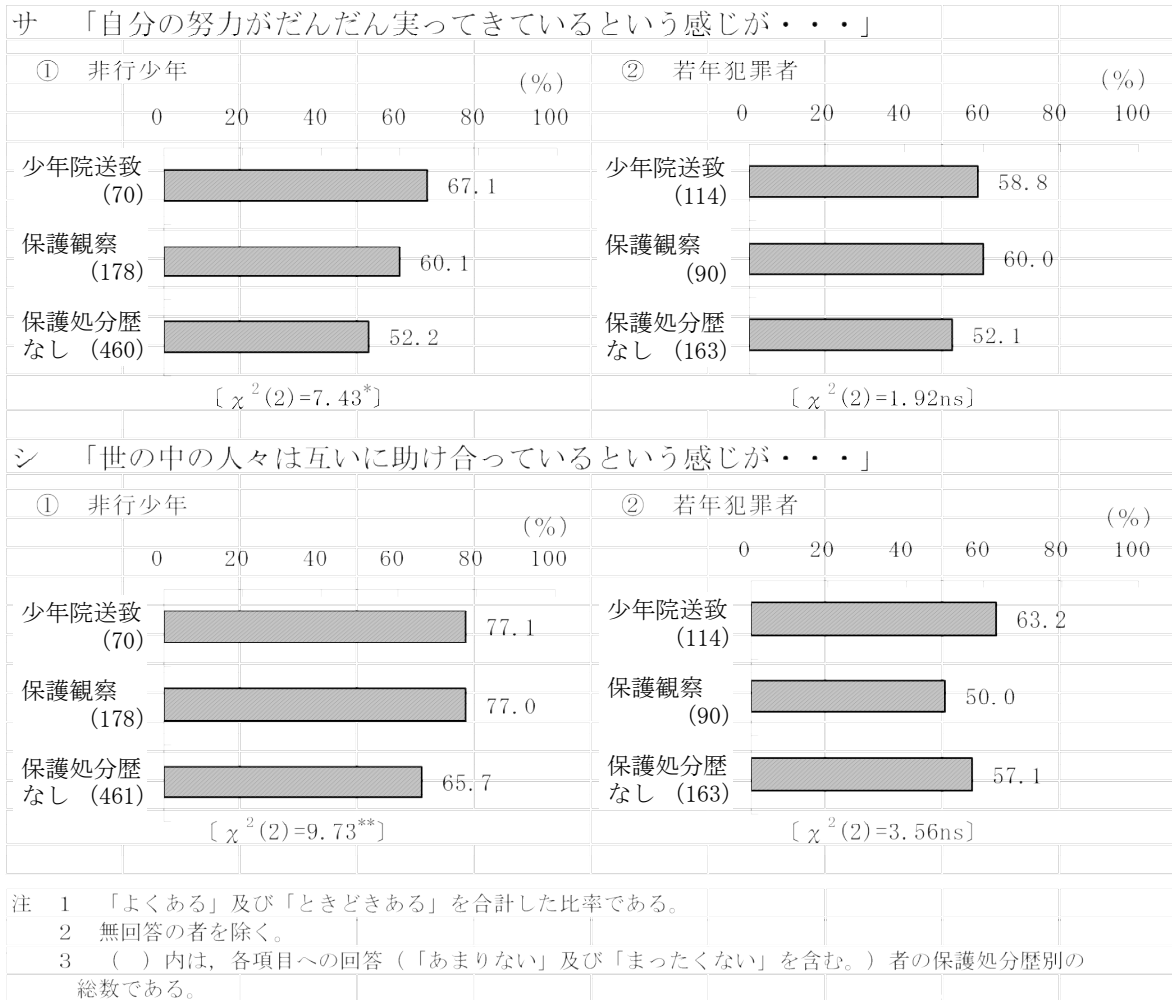


(2) 保護処分歴別の比較

2-9-2図は、今回調査において、非行少年・若年犯罪者別に、対人感情について保護処分歴別にクロス集計を行い、回答状況に有意差のあった項目について、その該当率を見たものである。非行少年では、少年院送致歴を有する者において、「自分は世の中から取り残されているという感じ」及び「自分の努力がだんだん実ってきているという感じ」について該当率が高く、保護観察歴を有する者においては、「世の中の人々は互いに助け合っているという感じ」について、該当率が高かった。一方、若年犯罪者では、「自分は何をやってもだめな人間だという感じ」においてのみ有意差が見られ、保護処分歴のない者において該当率が高く、少年院送致歴を有する者において同比率が低かった。

2-9-2図 対人感情（保護処分歴別）





なお、前回調査では、少年鑑別所の初入者と再入者について比較を行ったところ、前記の項目のほかに、「世の中には自分しか信じるものがないという感じ」、「心のあたたまる思いが少ないという感じ」、「自分は意志が弱いという感じ」及び「自分は頼りにされているという感じ」において、再入者の方が初入者より該当率が有意に高いという結果が出ていたが<sup>3</sup>、今回調査では、有意差は見られなかった(それぞれ、初入者32.4%、再入者36.3%、 $\chi^2(1)=1.03_{ns}$ 、初入者35.5%、再入者39.6%、 $\chi^2(1)=1.07_{ns}$ 、初入者70.5%、再入者72.5%、 $\chi^2(1)=0.30_{ns}$ 、初入者59.0%、再入者58.3%、 $\chi^2(1)=0.03_{ns}$ )。

3 法務総合研究所(2006)『法務総合研究所研究部報告32 ー最近の非行少年の特質に関する研究ー』(31-32頁)：「世の中には自分しか信じるものがないという感じ」(初入者31.1%、再入者35.2%、 $\chi^2(1)=4.50^*$ )／「心のあたたまる思いが少ないという感じ」(初入者37.5%、再入者44.8%、 $\chi^2(1)=13.10^{**}$ )／「自分は意志が弱いという感じ」(初入者71.3%、再入者75.8%、 $\chi^2(1)=5.85^{**}$ )／「自分は頼りにされているという感じ」(初入者62.2%、再入者67.6%、 $\chi^2(1)=7.39^*$ )